

資源の評価・動向予測によるアサリの漁業管理に関する研究

(予算区分 県単独 研究期間 平成24～26年度)

担当：水産技術研究所 浜名湖分場 上原 陽平

【研究の背景とねらい】

- ・ 浜名湖内で行われている漁業の中で、アサリ漁業は、漁獲量及び漁獲金額が最も多く、重要な地域産業となっています。しかし、漁獲量は、平成22年以降減少しており、漁業者等からは、資源水準の低下を心配する声が聞かれます。
- ・ アサリ漁業者は、資源保護などを目的に、漁獲量等の自主制限に取り組んでいますが、資源の適切な利用を図るには、漁場毎の資源状況に応じた細やかな管理が必要です。しかし、現状では湖内一律の管理手法となっており、漁場によっては資源水準に対して過度の漁獲圧が加わっているなどの可能性があります。
- ・ このような背景から、限りある資源を持続的に利用できるよう、科学的根拠に基づいた新しい漁業管理手法の提案を目指しています。

【これまでに得られた成果】

(平成24～25年度の成果)

- ・ 平成24年10月以降、浜名湖内の3か所にアサリの主漁場が形成されており(図1)、GPSを利用した漁場マッピングから、それらの総面積は約1.0km²と試算されました。
- ・ 平成24年10月から25年12月にかけて、殻長20mm超のアサリを対象に、主漁場内の資源量を調査しました。調査期間中、主漁場内の推定総資源量は、360～2,033トンで推移しました(図2)。
- ・ 上記の推定資源量と湖内全体の月間漁獲量データ(浜名漁協集計)を比較したところ、両者の数値変化はほぼ同様の傾向を示し(図2)、月間漁獲量は推定資源量の7.3～18.2%でした。

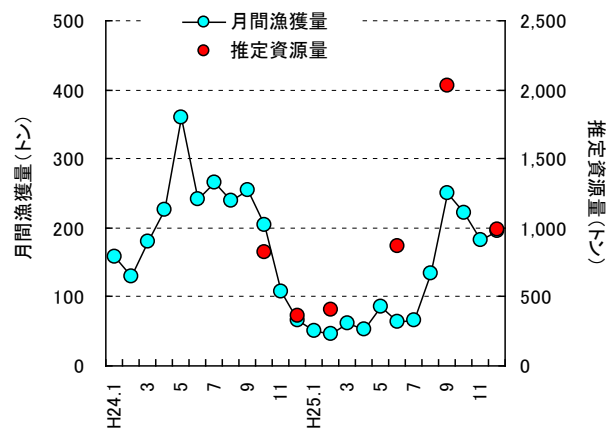


図2 アサリの月間漁獲量と主漁場内の推定資源量の変化

【今後の計画】

- ・ 主漁場の範囲(面積)、及び各漁場におけるアサリの資源調査を定期的 to 実施します。
- ・ 資源量の推定精度を実際の漁獲量との比較から検討し、短期的な資源予測を試みます。

(作成 平成26年4月)